

## 「脳血管障害画像診断のガイドライン」作成に関わるワーキンググループ

### 第4回会議・議事録

日時：4月6日、10:00~15:00

会場：会場：日本シエーリング（株）関東第一支店（東京日本橋）

出席者：日向野修一、安倍等思、渡辺嘉之、井田正博、岡 正樹、土屋一洋、前田正幸、宇都宮英綱、外山芳弘、興梠征典、佐々木真理（順不同）

1. グループごとに本文草稿書式を読み上げながら、表現法を含め内容について詳細に検討した。そこで出された質問や意見・コメントを参考にしながら、最終の草稿書式を近日中に仕上げることにした。なお各グループにおける議論の要旨は以下の如くである。
  - 総論：今回の草案で最初に記載した「放射線防護のための基本的物理量」については、用語解説の方に入れる。「CT の局所線量や被曝を表すための指標」の項は、最も重要な  $CTDI_{w, eff}$  とこれを用いて計算される  $DLP_w$  についてのみ解説し、他の細かい指標については用語解説に入れる。また「脳血管撮影の安全性」についても近いうちにディスカッションする。
  - A-2：MRI の撮像法(T2WI、FLAIR)による急性期診断が CT と同程度か劣ること、T2\*WI の出血予測について言及したほうがいいのではないかと意見があり、追加することとなった。MR-perfusion の撮像法や解析法の詳細については、A-3 内の井田先生に書いてもらうこととなった。最後に追加した MRI による患者選択の指針については“evidence はない”と断った上で付記する。
  - A-4：いわゆる"early sign"や、文献 1 の Alberta Stroke Programme Early CT Score についてより具体的な記載を、などの指摘があった。
2. 本ガイドラインのフォーマットなどに関して佐々木先生から案が示された。また、以下のように確認した。
  - EBR の階層分類や勧告度分類を記載していないグループは、メンバーで検討して記入する。
  - 本文草稿を基にして、用語や文献記載の統一を含め、本文を統一した形態で記載していく。具体的な書き方については、今後例を作って全体で検討する。
  - 付録として EBM 一般の解説、脳卒中関連の用語集、NIHSS や mRS などのスコア、放射線被曝の物理なども含める。
  - ガイドラインの本文から文献番号をクリックすると、構造化抄録フォームに行くようにする。
  - リサーチクエスションはサブタイトルまたは「はじめに」の中を書く。
  - 本文中で強調したいところがあれば、その旨指示しておく。
  - 抄録フォームなど全ての書類を Web ページ上で公開するので、文字化けしないように

フォントに注意する。

3. 本ガイドライン全般について以下のような議論がなされた。
  - 第一段階の作業が終了し体裁がある程度整った段階で、外部評価委員を選定し評価を受ける予定である。
  - 6 学会合同の脳卒中診療ガイドラインが今月中に公開される予定とのことであり、それをよく検討した上で、必要があれば文面の訂正や追加などを行う。
  - 最終的には、専門医会のホームページに載せるべきであろう。
  - 「ガイドライン」と読んでもよいのか、現時点では「エビデンスのまとめ」とでも言う方が正確ではないかとの意見があり、それに対し、現状でも十分に放射線科専門医の診療支援になると考えるが、最終的には我々の意見の総和として「勧告のレベル」推奨事項や懸案事項」を記載していくことが重要と考えている、といった議論がなされた。
  - 上記事項に関連して、Web ページを公開した際に現在の内容では読んだ人に戸惑いが生じるのではないかとの意見があり、それに対しては、本ガイドラインの立場や現在進行中の作業であることなどを前書きに説明する必要があるだろう、さらに Web ページを見た一般の人が入っていくところを作る必要もあるだろう、といった議論がなされた。

(文責 興昶征典)